

日本共産党 青森市政だより

発行 日本共産党青森市議団
〒030-0822 青森市中央1-22-5 市議会日本共産党控室

連絡先

市議会日本共産党控室 ☎ 017-734-1111
(内線) 6017
直通・FAX 兼用 ☎ 017-722-8904
メールアドレス kyousant@grace.ocn.ne.jp
日本共産党東青地区委員会 ☎ 017-777-7241

ご意見・ご相談をお気軽にお寄せ下さい。

議会報告



ウワミズザクラ

除排雪体制の改善、新型コロナ対策強化… 命と暮らしを守る予算が必要

新年度予算案には事業者支援として約4億円が計上されました。赤平ゆうと市議は一般質問で「2年以上に渡り影響を受け続け、減収している事業者に対して給付金を実施するべきだ」と求めました。答弁に立った百田満経済部長は「大きな影響を受けている」とは認めながらも、これまで通り「本市独自の簡素な手続きで可能な支援をおこなう」と説明しました。赤平市議は「前回実施時の最低支給額はいくらだったのか」と質問すると、2000円だったことが明らかになりました。市が再度実施する支援事業は支給額がこれまでの1.5倍となりますが、2000円を支給された事業者は増額しても3

最低支給額2000円
これで事業者支援になるのか

「災害級の大雪になっても除排雪が来ない」「新型コロナの影響で店を閉めることにした」「新型コロナの検査体制を強化してほしい」——今冬の大雪や新型コロナの影響で市民から悲鳴の声があがっています。日本共産党青森市議団は、3月議会でも、切実に寄せられている市民の実態を紹介しながら、新年度予算の中身について命と暮らしを最優先にするべきだと求めました。

000円です。また、市税滞納者や露店業者などは支給対象から外されています。この内容で最大限の支援といえるでしょうか。

農家にも冷たい市政

新型コロナの影響による米価大暴落が米農家を襲っています。天内慎也市議は「県内市町村のほとんどが米価下落により減収した農家へ補填しているのに、青森市だけ対策がないのはおかしい」という農家の声を紹介し、減収への支援を求めました。

防災対策は後回し

アリーナ建設、 周辺整備に31億円

3月議会に提案された新年度予算案には操車場跡地へのアリーナ建設の工事費や周辺整備に必要な費用として約31億円が計上されました。万徳なお子議員は、操車場跡地は

洪水浸水想定区域に指定されていることや幹線道路からの接続部が狭いことを念頭に「広域防災拠点として使えるのか」「浸水対策は大丈夫なのか」と質問しましたが、市は具体についてはこれから考える旨の答弁をしました。日本共産党市議団は「災害時の対策や幹線道路との接続の詳細がわからないまま、白紙委任で賛成するわけにはいかない。不要不急のアリーナ建設より暮らしを優先するべきだ」と予算案に反対しました。

市民病院と県病の 統合案が急浮上

新年度予算案には、市民病院と県病を統合するための事務費も計上されました。両病院とも建物の老朽化が進んでいるので、建て替えが必要ですが、統合をすることにより病床数が現在の2つの病院を合わせた数よりも少なくなる恐れがあります。また、方向性の決め方も市民意見を聞かずに進めていることも問題です。天内市議は一般質問で「新型コロナの収束する見通しも立たない中で統合するか病床を減らすといった議論をすることは問題だ」と訴えました。

アリーナに約31億円 事業者支援は約4億円

会派の態度

条 例 ・ 意 見 書 など		共	令和	自民	市ク	公	無
令和4年度青森市一般会計予算	可決	×	○	○	○	○	○
後期高齢者の医療費窓口負担1割の継続を求める意見書	否決	○	○	×	×	×	○
国立病院の機能強化を求める意見書	否決	○	×	×	○	×	○
日米地位協定の抜本改定を求める意見書	否決	○	×	×	○	×	○

(閉会日は日本共産党の藤原浩平議員、あおもり令和の会の木戸喜美男議員、市民クラブの橋本尚美議員が欠席)
共→共産党、令和→あおもり令和の会、自民→自由民主党、市ク→市民クラブ、公→公明党、無→青森無所属の会
(○→賛成、×→反対、△→一部賛成)

赤平ゆうと



「何時間もかけて消火活動をおこなっても報酬は2170円」―災害が相次ぐ中、役割が一層強まる一方で、労苦に報いる額とは言いえない消防団員の報酬について、赤平ゆうと市議は2020年12月議会や21年6月議会ですり上げようとしてきました。その後、国から通知が出されたこともあり、市は3月議会に年報酬では2011

消防団の報酬引き上げが実現！

高まる役割に見合うようにさらなる追求を

年以来、出動手当では1997年以来となる報酬引き上げの提案を出しました（表参照）。赤平市議は「国の通知の趣旨を踏まえた基準に合わせる」ことが重要だ」と強調し、「出動報酬については1日4000円ではなく、国基準と同じ8000円とし、団の運営費についても、現物支給ではなく、経費として支給するべきだ」と訴えました。これに対し、成田智消防長は「市の考え方としては出動報酬については、活動時間の多くが約4時間程度なので、1時間当たり1000円と計算した。運営費については報酬と分けて必要な現物を支給できているため問題はない」と答弁しました。赤平市議は、総務省消防庁は「社会情勢の変化に合わせて適宜見直しも必要」と述べていることを示し、高まる役割に見合うようにさらなる改善の追求を求めました。

消防団員の報酬

	これまで	4月から	国基準
年報酬	22100円	36500円	36500円
出動報酬	一回につき2170円	1日4000円※	1日8000円

※災害出動の場合の報酬。訓練出動などは1日2000円

※活動時間が8時間超えた場合は8000円

村川みどり



3月28日の一般質問で村川みどり市議は、廃校にした小学校の維持管理の徹底を求めました。

現在、廃校になった小・中学校7校（旧浪岡地域を除く）のうち6校が、町内会やスポーツ団体に無償で貸し出されています。

村川市議は、2012年廃校の栄山小学校の体育館を利用する団体関

廃校にした学校施設でも

安心して使えるよう管理の徹底を

係者から相談を受け調査。片側一列すべての照明がつかず、子ども達が薄暗い中でスポーツ活動をしているという実態を訴え、貸し出すからにはメンテナンスするように求めました。小野正貴教育部長は「教育委員会との契約で経年劣化による修繕はしない、現状貸し」が条件になっている。現在ある小・中学校を優先的にし、学校保健安全法で、体育館の明る

さには300ルクスとなっているが、廃校は適応にならない」と答弁。「村川市議は「現在使用している小・中学校でも、全照明の3分の1がつかないまま放置されている学校がある」と告発。「市の放置により、3学年の予算とPTA会費で照明の費用を補った中学校もある」と指摘し、「廃校した施設であっても、実際に子ども達が使っている。基準を満たしていな

学校名	不点灯数	%
堤 小	9 個 / 24 個	38%
新城中央小	8 個 / 20 個	40%
三 内 西	10 個 / 20 個	50%
横 内 中	12 個 / 28 個	42%
浦 町 中	4 個 / 12 個	33%
造 道 中	12 個 / 24 個	50%

天内しんや



現在、市内全域で空き家が増加している中、空き家からの屋根雪による近隣住民への落雪被害や、家屋の倒壊の防止に向けて、市の対応の改善が求められています。

天内慎也市議は3月4日の一般質問で、空き家の屋根雪に関する情報提供件数と、そのうち緊急性があると判断して、市が現場対応した件数、その判断基準について市の見解を求めました。

対策の強化が必要

豪雪による空き家被害続出

平岡弘志都市整備部長は「空き家の屋根雪に関する通報実績は、青森で235件、浪岡で13件、市が危険と判断して対応した件数は、青森で13件、浪岡で1件」と示したうえで、市が危険性を判断する基準としては、「特

段の定めはないが、作業に危険が及ばないこと、対象建物と近隣家屋に支障を及ぼさないこと」と答えました。

天内市議は、市民から通報件数に対し、市が対応した件数が少なすぎる事を指摘したうえで、「その要因のひとつとして、所有者等に管理依頼をして、無反応が多いのが実情だが、そこで立ち止まるのではなく、緊急性を判断し、市が対処できる仕組みを、除排雪化が必要です。

万徳なお子



流・融雪溝を利用しての住民でつくる管理組合から、「利用者から苦情や相談が相次ぎ、組合から抜きたいという住民が増えたり、財政面でも維持が厳しい」という声が寄せられています。

万徳市議は一般質問で、流・融雪溝の利用に関する相談件数と内容を質問しました。

流・融雪溝
志都市整備部長は「2月27日現在で、43件の相談があり、うち流れない13件、冠水11件の相談が寄せられています。万徳市議は「相談については、市と消防と管理組合が連携して対応し、設備の設置箇所や緊急時の連絡先について情報を共有している」と説明。「水が流れない等の相談には管理組合とともに原因究明にあたっている」と答弁にたった平岡弘

施設管理を組合任せにするな

と答弁しました。

現在、市と管理組合が交わしている協定書の内容は、維持管理のほとんどを管理組合の仕事としており、市がやることは、大規模設備の更新にとどまっています。万徳市議は「協定の見直しを検討すべきではないか」と質問。それに対し、平岡都市整備部長は、「相談があればその都度対応する」と述べ、見直しの検討については答弁しませんでした。万徳市議は、今後の流・融雪溝の整備

スケジュールについても質問しましたが「残り6地区について状況を見ながら検討する。」と答弁するにとどまりました。

万徳市議は「市と管理組合との協定書を見直し、市が流・融雪溝の維持管理に当たること、今後の設置について早急に計画を作成することが必要だ」と求めました。

藤原浩平議員は体調不良のため、質問しませんでした。